



村民とともに 知恵を出し合いながら

鮫川村議会議長 前田 三郎
Saburo MAEDA



人が集まる 魅力ある村づくり

鮫川村長 大樂 勝弘
Katsuhiro DAIRAKU

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、輝かしい平成二十二年を迎えられましたこと、心からお喜びを申し上げます。村政に對しまして、平素から積極的にご参加いただき、深く感謝を申し上げます。

我が国の経済は、一昨年のアメリカのサブプライムローン破綻に端を発した世界恐慌の影響をともに受け、業績が悪化する企業が続出しています。また、失業者の増加と賃金収入の

減少により国内購買力も縮小し、その結果、安売り合戦による物価の値下がりというデフレーション基調が懸念（負の連鎖）される状況下にあります。従いまして、国の税収も当初の見積もりよりかなり落ち込むことが確実に視されています。このような中、

本村の財政状況も大変厳しいものがありますが、国の地域活性化・経済危機対策事業を積極的に取り入れ、失業対策と地元経済の底上げを図りつつ、これまで、厳しい財政事情から手が届

かなかった分野の事業にも取り組んでいるところであります。

さて、平成二十二年度は、昭和四十七年度に建築され老朽化の進んでいました村民保養施設「さざり荘」の改築を計画して

います。また、定住化をすすめるための村営住宅の建設と宅地分譲も計画しています。村の中心地に賑わいを創り出すための「館山公園」整備も順調に進んでおり、二十二年度には樹種転換が完了する予定であります。小・中学校の耐震整備もほぼ完

了する見通しになりました。安心・安全、環境と人に優しい「有機の里づくり」は、いよいよ「たい肥センター」の建設に入ります。

今年も、安全で安心して暮らせる村、人が集まる魅力ある村づくりのために努力して参りますので、皆様方の積極的なご提案、ご協力をお願い申し上げますとともに、本年も皆様にとりまして最良の年になりますことをご祈念申し上げ、年頭のごあいさつにさせていただきます。

自立していくためには、第三次村振興計画の理念に基づき、「まめで達者な村づくり」を推進し、少子高齢化対策、医療・介護保険の充実、農業・商工業の振興、村の将来を担う子どもたちの教育、また、村パイオマスヴィレッジ構想の「たい肥センター」の建設などに取り組んでいかなければなりません。山積する課題に、執行機関とともに真剣に考え、村民の皆様への負託と期待にこたえられるよう精一杯努力して参ります。村民の皆様と知恵を出し合いながら、また、住民との共同を期待し、これらの課題に立ち向かっていきたいと考えます。

新年明けましておめでとうございます。

皆様には健康で、希望に満ちた新春を迎えられましたことをお喜び申し上げます。

昨年は金融危機に伴う世界的な景気悪化が進む中、自動車や電機などを中心に減産が相次ぐなど、雇用を取り巻く環境が悪化の一途をたどっています。

村では、政府の対応による地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業を活用し、失業者の雇用確保のため緊急雇用創出事業

を始め、村有施設の必要な修繕・改修など先取りでの実施、また

景気浮揚対策関連事業で農林道整備などの補正予算措置を講じ対策事業を進めてきました。耐震診断テスト結果による鮫川小学校、鮫川中学校校舎の耐震補強改修工事は十二月に完了し、安全な学校施設が整いつつあります。また、生命の安全という点では、新型インフルエンザが県内でも猛威を振るい、村においても感染者が発生し、鮫川小学校など、学級閉鎖がとられます。

したが、ワクチンの接種が昨年十月にスタートし、今後の予防が期待できるものと思います。

総選挙では民主党が圧勝し、歴史的な政権交代となりました。政府の「事業仕分け」による県や村の事業への影響が懸念されますが、新年度予算編成の行方が注目されます。

議会では、行財政改革特別委員会を設置し、議会の課題、行財政の調査・検討を行い、改善や提言などに取り組んでいきます。

今年も皆様にとりまして、良き一年でありますようご祈念申し上げます。年頭のあいさついたします。